

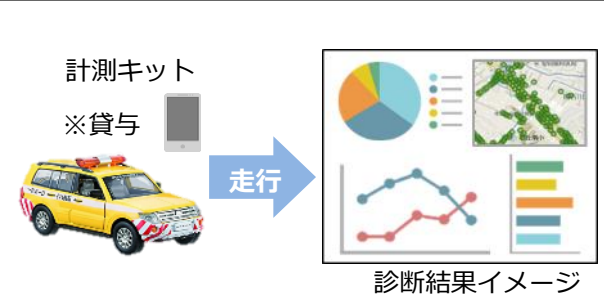
「道路舗装診断の自治体現場における実践事例セミナー」開催結果

- 5月22日（月）、革新的技術フォーラムの取組として、日常パトロール等で道路路面性状を効率的に把握し、改修計画の優先度判定等に活用できる技術を取り上げ、**現場での実践事例の紹介と技術比較を行うセミナー**を東京の他10のサテライト会場などで開催。
- 今後も、他の技術も取り上げ、**自治体の取組の水平展開や、現場に役立つ技術開発と実装を後押し。**

開催概要

〈プログラム〉
 国土交通省取組紹介、道路舗装診断技術紹介、自治体取組紹介、QA、総評
 〈参加者〉
 約400名（本会場；約150名、サテライト会場；計約100名、ウェブセミナー；約150名）

(株) 構造計画研究所、(株) ゼンリンデータコム J I Pテクノサイエンス (株)



計測キットを取り付けて走行して、IRI相当の独自指標により路面性状を把握

バンプレコーダー (株)

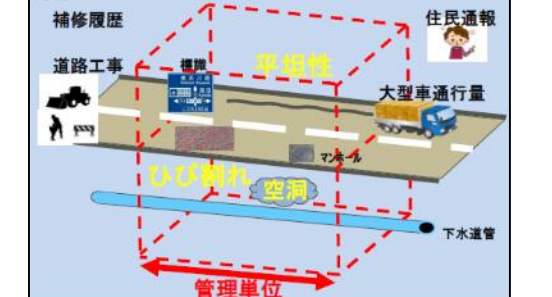


スマホ等を搭載することで、パトロール時にフルオートでIRI等の平坦性を計測



iPhone等に内蔵されているセンサを利用して路面形状を推定し、IRI算出

(株) 東芝



川崎地質 (株) (株) 富士交通・道路データサービスとの3社マッチング



久保 和幸 氏(国土技術政策総合研究所) 国土交通省の取組紹介



藪 雅行 氏(国立研究開発法人 土木研究所) 総評



鈴木 康二 氏(浜松市) ICT技術による簡易的な路面性状調査の活用に向けて



本会場の様子

自治体からのコメント

- 浜松市「全国1位の道路延長のメンテナンスサイクルを最新技術も使ってどのように回すか模索中」
- 品川区「目視では分かりづらい異常への対応などが課題」
- 大分県「今後、限られた補修予算の中で新技術の継続的な運用が可能かについて検討が必要」